

令和 8 年度 第 1 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

## 専門試験

科目名：053.外国語教育学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字の I、II……）ごとに別の解答用紙を用いること。

ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

### <解答する設問と配点について>

(1) 設問は I から VII まであります。

どの受験者も、I と II 両方の設問に解答しなさい。次に、

a. 「外国語教育論」（ピーターソン、中森研究室）の受験者は、III と IV 両方の設問に解答しなさい。

b. 「言語教育研究開発論」（柳瀬、塚原、柿原、ダルスキー、金丸、笹尾、和泉研究室）の受験者は、V から VII の 3 問のうちから 2 問を選択して解答しなさい。

(2) 配点は、どの設問も 75 点ずつ、計 300 点満点です。

### <解答言語について>

設問は英語と日本語で出題されていますが、以下に留意してください。

(1) a. 「外国語教育論」の受験者は、I から IV 全ての設問に英語で解答しなさい。

(2) b. 「言語教育研究開発論」を志望し、英語教育学を専攻する受験者は、全ての設問に英語で解答しなさい。  
それ以外の受験者は、日本語か英語のいずれかで解答しなさい。

### <解答の仕方について>

(1) 論述に必要な用語は、明示的に定義して使いなさい。

(2) 論述に必要な理由と例は、具体的に示しなさい。

(3) 論述に必要な観点や限定条件などは、個々の設問で指定がない限り、自分で設定しなさい。

(4) 各問題をどのように限定するか広げるか、すなわち何を重要としているかも評価の対象にします。  
定義の仕方や論証の仕方も評価の対象にします。

(5) 是か非か、あるいは必要か否かを論じる設問では、どちらの立場をとるかは評価の対象にしません。

(6) 解答は、設問ごとに別々の解答用紙を使い、設問ごとに表と裏を合わせて 2 ページ以内で完結させなさい。

令和 8 年度 第 1 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

## 専門試験

科目名：053.外国語教育学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字の I、II……）ごとに別の解答用紙を用いること。

ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

<共通問題> 全ての受験者は、設問 I と設問 II に答えなさい。

### 設問 I

Discuss the value of studying a foreign language other than English at higher education such as universities, using specific examples from your own experience.

### 設問 II

「外国語教育において、教師は学習者に動機づけを与えるべきである」という言説に対するあなたの考えを述べなさい。

### <選択問題>

a. 「外国語教育論」の受験者は、設問 III と設問 IV に答えなさい。

### 設問 III

How can computer technologies be used to enhance foreign language learners' willingness to communicate?

### 設問 IV

外国語学習指導における、語用論的側面と音声面との関わりについて、具体例を挙げながら、あなたの考えを述べなさい。

b. 「言語教育研究開発論」の受験者は、設問 V から設問 VII のうち、2 問を選択して答えなさい。

### 設問 V

Could AI have a culture which affects language education? Explain with examples.

### 設問 VI

外国語学習において、単語より小さい単位（英語における例：kindness の -ness）を学習する利点と注意点について述べなさい。

### 設問 VII

外国語学習と文化資本の関係について、あなたの考えを述べなさい。